

(案)

様式第 5 - 1 (日本工業規格 A 列 4 番)

燕生環第 号
平成 年 月 日

国土交通大臣 殿

住 所 燕市白山町 2 丁目 7 番 2 7 号

氏名又は名称 燕市地域公共交通会議

平成 2 4 年度地域公共交通確保維持改善事業費補助金
(地域公共交通調査事業) 交付申請書

平成 2 4 年度地域公共交通確保維持改善事業費補助金 (地域公共交通調査事業) 金 9, 000, 000 円を
交付されるよう、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律 (昭和 30 年法律第 179 号) 第 5
条の規定に基づき、別紙関係書類を添えて申請します。

平成24年度地域公共交通確保維持改善事業費補助金
 (地域公共交通調査事業) 交付申請事業

補助対象事業者名 燕市地域公共交通会議(協議会) (単位:円)

補助対象事業の 名称及び内容	補助対象事業の着手 及び完了予定日	補助対象経費	補助金額
燕市地域公共交通調査事業 ・地域データ収集分析 ・住民アンケート調査 ・課題と施策方向検討 ・公共交通基本計画 ・地域住民啓発事業 ・実証調査 ・協議会開催	交付決定日～ 平成25年3月31日	9,000,000	9,000,000

(添付書類)

- (1) 地域公共交通調査事業の実施に関する計画
- (2) 補助対象経費に係る見積書
- (3) その他補助金の交付に関して参考となる書類

地域公共交通調査事業の実施に関する計画

1. 当該地域の公共交通の概況・問題点

燕市は、新潟県の県央地域、新潟市と長岡市の中間に位置し、市域西部の国上山周辺を除いてほぼ平坦な地形となっている人口約 8.3 万人、総面積は 110.94 km²の都市です。

市内の公共交通は、北陸自動車道の三条・燕インターチェンジと上越新幹線燕三条駅の高速交通機関が通り、民間事業者による路線バス、市による循環バスや巡回バスが運行しています。

これらバス等の公共交通機関は、通院や買い物等の市民の「生活の足」となり、日常生活に必要不可欠な移動手段となっていますが、自家用自動車への依存・家族への負担の高まりや少子高齢化の進展に伴い、民間交通事業者の経営環境の悪化や市の財政負担の増加など、地域公共交通を取り巻く現状は厳しさを増してきています。

民間交通事業者の路線バスでは、一部の路線運行に国の補助を受けつつ、懸命の努力によって何とか路線を維持している状態にあり、大幅な縮小や休廃止がいつ生じてもおかしくない状況にあります。

また、循環バスや巡回バスは、市が財政負担をして運行している公共交通についても、一部路線の見直しやダイヤの変更などの対策を講じてきていますが、公共交通利用促進につながる抜本的な解決策は打っていません。

こうした状況の中、今後、本格的な少子高齢化社会を迎えるにあたり、交通移動手段を持たない市民の生活の支えとなり、また環境への負荷も小さい地域公共交通を確保・維持していくことは、市の重要な政策課題の一つでもあります。

2. 地域の公共交通の確保維持改善に係る計画の策定調査の必要性

(1) 市全体の地域公共交通の見直し

現在の使い勝手が悪く、利用者の少ない巡回バスを抜本的に見直すとともに、路線バスとの重複などを改善することが必要です。鉄道や路線バスとの役割分担の明確化などをはじめとして、燕市の地域公共交通全体のあり方を再考し、その中で巡回・循環バスの仕組みを改めるべきであり、公共交通基本計画策定のための調査が必要です。

(2) 高齢者のニーズに適う移動サービスの提供

今後、高齢者は確実に増加するため、高齢者が買物や通院などに利用しやすい地域公共交通を提供することが必要です。冬季の悪天候を考慮すると、ドアツードアのサービスを提供するデマンド交通への期待が高まると考えられます。高齢者のニーズに応じた移動サービスの提供に向けて調査を行う必要があります。

(3) 新庁舎建設に伴う仕組みづくり

市の庁舎運営は分庁方式を採用し、合併前の 3 市町に庁舎がそれぞれ設置されていますが、分庁方式を廃止しし庁舎の統合を行うため、新たな場所に新庁舎の建設を進め平成 25 年 3 月末には完成予定となっております。このことから、地域内にあった庁舎が遠方になり交通移動手段を持たない市民に対する地域の公共交通の果たす役割は大きく、新庁舎完成までに運行ルート確立が重要かつ緊急性の高い主要施策として急務となっています。

3. 調査の内容

本調査では、市域全体の地域公共交通の課題を整理するとともに、利用者ニーズを把握した上で、地域公共交通の改善に向けたあり方を検討します。また、重要かつ緊急性の高い主要施策について具体的な仕組みを検討します。特にフィーダー路線については、事業者との調整を進めつつ市民周知も図りながら、本格運行に向けた準備・研究を行います。

調査の名称	調査の内容
1. 地域データ収集分析	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域概況（人口分布、高齢化、通勤・通学、地理、道路網等） ・ 生活関連施設状況（医療、学校、商業、行政機能等） ・ 公共交通の実態（ネットワーク、便数、連絡性、駅前広場・バス停留所状況、運賃、利用者数、運行経費等） ・ 上位関連計画における位置づけ（まちづくりの視点での整合性）
2. 住民アンケート調査	<p>【住民アンケート】 3,000 票配布（郵送方式）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査項目 公共交通利用状況、特定日の交通行動、公共交通を利用する理由・利用しない理由、改善ニーズ、改善後の利用意向 等 <p>【高校生アンケート】 430 票配布（市内 3 校へ手渡し配布・回収）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査項目 通学手段（乗り継ぎ含む、登下校別、季節別）、公共交通を利用する理由・利用しない理由、改善ニーズ、改善後の利用意向 等
3. 課題と施策方向検討	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域公共交通のサービス水準（ネットワーク、所要時間、ダイヤ、運賃など）や車両、結節点の利用環境などについての課題 ・ 地域公共交通の改善方向、施策方向
4. 公共交通基本計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主要施策検討（重要かつ緊急な施策について検討） 目的・必要性、実施主体、施策内容、概算費用、定量的目標・効果、スケジュール ・ 事業計画立案（次年度より実施する事業計画の立案） 事業目的、実施体制、実施内容、検証方法、事業費用、実施手順・スケジュール
5. 地域住民啓発事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業に関する市民説明会 ・ 事業の周知広報
6. 実証調査	<p>【利用者ヒアリング調査】 200 票（実験参加者等へのヒアリング）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査内容 実験前・実験中の移動手段、予約方法に対する意見、実験満足度、継続・改善要望、利用しない理由 等 ・ 結果を踏まえた改善方法の検討
7. 協議会開催	<ul style="list-style-type: none"> ・ 燕市地域公共交通会議 4 回程度開催

4. スケジュール				
以下項目別に概ねの着手・実施期間を矢印（←→）、または横棒線（——）で記載。				
調査の名称	4月	9月	12月	3月
1. 地域データ収集分析	←→			
2. 住民アンケート調査	←→			
3. 課題と施策方向検討	←→			
4. 公共交通基本計画	←→			
5. 地域住民啓発事業			←→	
6. 実証調査			←→	
7. 協議会開催	↔	↔	↔	↔

5. 予算計画			
調査の名称	総事業費 (見込み)	国費 (見込み)	地域の負担 (見込み)
1. 地域データ収集分析	500 千円	500 千円	千円
2. 住民アンケート調査	2,600 千円	2,600 千円	千円
3. 課題と施策方向検討	400 千円	400 千円	千円
4. 公共交通基本計画	1,200 千円	1,200 千円	千円
5. 地域住民啓発事業	700 千円	700 千円	千円
6. 実証調査	2,900 千円	2,900 千円	千円
7. 協議会開催	700 千円	700 千円	千円
小 計	9,000 千円	9,000 千円	千円